SCM-11211), 田名塩田(松本雅人 s.n., Aug. 16, 1998, SCM-10883). 座間市小池東原(松本雅人 s.n., Oct. 5, 1998, KPM-NA117139). (ACM: 厚木市郷土資料館, KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館, SCM: 相模原市立博物館).

本稿をまとめるにあたり, 御助言をいただいた門田裕一博士と, 生育地の情報を寄せてくださった松本雅人氏に謝意を表する.

(神奈川県立生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Odawara, Kanagawa, 250–0031 JAPAN)

新 刊

☐ Saunders R. M.: Monograph of Schisandra (Schisandraceae) 146 pp. 2000. The American Society of Plant Taxonomists. \$21.00.

これはアメリカ植物分類学会が刊行してい る Systematic Botaniy Monographs の 58 巻と して出版された、文字通りマツブサ属の分類 誌である. 著者 Saunders はすでに同じシリー ズの54巻(1998)でサネカズラ属を纏めて いる. 著者によればマツブサ属は23種に分 類され、1種(S. glabra)が北アメリカに産 する他はすべてアジア産で、多様性の中心は 中国南東部から中南部にある. 本書は、この 属についての研究史、形態学、生化学、胚発 生, 生物地理などからの分析, 形態形質にも とづく系統解析とそれに基礎をおく分類体系. 各種についての詳細な記載と標本などからな る. いずれの分析も詳細でかつ適切な評価が 与えられている. 日本に産するマツブサとチョ ウセンゴミシの扱いには従来と変わりはない. 本書は多数の標本を引用しているが、日本の 標本館の標本は数点を除き引用されていない. このような総括的研究にどの研究機関も貸出 しなどの協力ができなかったのは、事情があ るとはいえ悔やまれる. (大場秀章)

□李 永魯:韓国植物研究院報 第一号.

李 永魯氏が主催する韓国植物研究院から研究報告が出版された。韓国植物研究院報第一号(Bull. of Korea Plant Research No. 1, May 10, 2000)である。B5 判, 50頁からなり,多くの美しいカラー写真や図を入れて,韓国に産する Pulsatilla, Asarum, Orostachys, Elsholtzia, Nuphar, Allium scorodoprasm L.の解説や,韓国新産の植物などが報告されている。論文は主に韓国語であるが,必要なところは英語で書かれている。幾つかの新種や新変種が見られる。韓国の植物は日本に深い

関係を持つので、この報告書は日本の植物研究にも見逃せないものである。定価が書かれていないので、非売品だと思う。出版は次の所である。韓国植物研究院、ソウル特別市鐘路区東崇洞1-88. (山崎 敬)

□土門尚三:山形県 北庄内の植物誌 190 pp. 1999. 北庄内の植物誌刊行会. ¥3,500 (税別).

力作である. 本書でいう北庄内とは, 山形 県日本海側の庄内地方のうちの最上川以北を 指し、鳥海山と飛島を含んでいる、全体の構 成は、 I. 山形県北庄内の代表的な植物の図 譜、Ⅱ. 山形県北庄内の植物相(フロラ)に ついて、 Ⅲ. 山形県北庄内の植物目録, Ⅳ. 分布・分類学上特記すべき植物、の4つ となっている. パート I にはチョウカイフス マ. チョウカイアザミなど力強い 41 葉の線 画が収録されている. 著者から原画を見せて いただいたときから本書の刊行を楽しみにし ていたものである. パートⅡには植物相の特 徴と植生が概観されている. 本書は、「山形 県の8%を占めているこの北庄内に、151科 1.747 種もの高等植物が自生していることが 明らかになった. じつに山形県全体からすれ ば約75%もの植物が存在することになる. 山形県においてこれだけの面積にこれだけの フロラは他にないと言ってよかろう | という. パートⅢがそのリストであるが、もとになる 標本の所在を明記して欲しいところである. 本地域に含まれる飛島はトビシマカンゾウ, ヒロハキクザキイチゲなど固有の分類群が分 布するほか、山形県に62種が知られている 日本海要素がたった3種だけ(オオイタドリ, ハイイヌッゲ、ミチノクホンモンジスゲ)し かないというのは驚きである. パートⅣには 特記すべき植物の、北庄内及び山形県での形